



平成22年度・23年度 文部科学省委託事業

コミュニティスクール(学校運営協議会制度)推進校

今 さくら花開く

学校運営協議会テーマ

共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」
～みんなの力で守り育てよう

瀬谷さくら小学校、さくらの子～

2年間の活動を振り返って

学校運営協議会 会長 網代 宗四郎

地域の皆様や保護者・教職員の皆様に、学校運営協議会の活動に温かいご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。また、ご指導、ご支援くださいました関係機関の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成22・23年度の活動のまとめと致しまして本誌を発行させていただきました。一昨年5月25日に開催された第1回運営協議会におきまして、委嘱状をいただき、さらに、協議会の役割についてお話を伺い、任務の重大さに身の引き締まる思いをしたことを昨日の事のように思い出されます。

副会長の馬場勝己委員や野口周作委員をはじめ各委員の皆様が、更に各部会活動に所属されている方々がそれぞれの役割に情熱を注がれ、しっかり果たしてくださいました。加えて古川前校長先生、八嶋校長先生の適切なお助言、ご協力をいただき二年間活動を行うことが出来たと感謝しております。

協議会本来の活動であります「学校運営方針」の承認や、「学校評価」等の活動に加えて、具体的な学校支援活動を検討し行う活動部会を併設してまいりました。初年度の大きな課題でありました、校歌・校章の策定につきましては、校歌・校章部会に担当していただきました。多くの皆様のご努力によりまして、児童の皆さんや保護者・先生・地域の皆様のお気持ちを充分くみ取っていただいたものとなっております。



校歌「大きな翼」は第1回卒業式以来今日まで児童の皆さんが、元気に、楽しく歌っています。「校歌」・「校章」を作成してくださいました皆様にご心から感謝申し上げます。

昨年3月11日に発生した「東日本大震災」により、元気に、そして、大きな夢を持って勉強しておられた児童の皆様が大勢亡くなられました。とても悲しくてなりません。亡くなられた皆様の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

今年度、児童の皆さんをあらゆる災害から、しかも、何時いかなる状況に於いても守れるよう「児童を災害から守る検討部会」を発足して、学校、家庭、地域の役割と連携のあり方や、災害に強く安

全なまちを作るための検討と活動を行ってまいりました。

2年間の活動に加えまして全国研修会や横浜教育実践フォーラムへの参加、先進的实践をされておられます京都市立の高倉小学校・御所南小学校の視察等のなかで沢山の事を学ばせていただきました。今後の活動に活かしてまいりたいと考えております。

自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子の健やかな成長と瀬谷さくら小学校が確かな歴史を築きながらご発展されます事をご祈念申し上げあいさつとさせていただきます。



横浜市立瀬谷さくら小学校
〒246-0035
横浜市瀬谷区下瀬谷3-58-1
TEL:045(303)0803
FAX:045(303)0864

学校運営協議会誕生から2年

再編統合を経て小学校新設と共に設立

二つの地域をつなぐ大きな力に

開校宣言文を皆さんに披露



下瀬谷地区

学校運営協議会風景



ひなた山地区

下瀬谷小学校の児童数増加に伴い、昭和55年9月に日向山小学校が独立し、30数年の間それぞれの学校が独自の学校文化を築き上げてきました。しかし、両校の児童数減少を期に、再編統合の計画が持ち上がりました。約2年間の準備・検討委員会の話し合いを経て、平成22年4月に「瀬谷さくら小学校」が誕生しました。

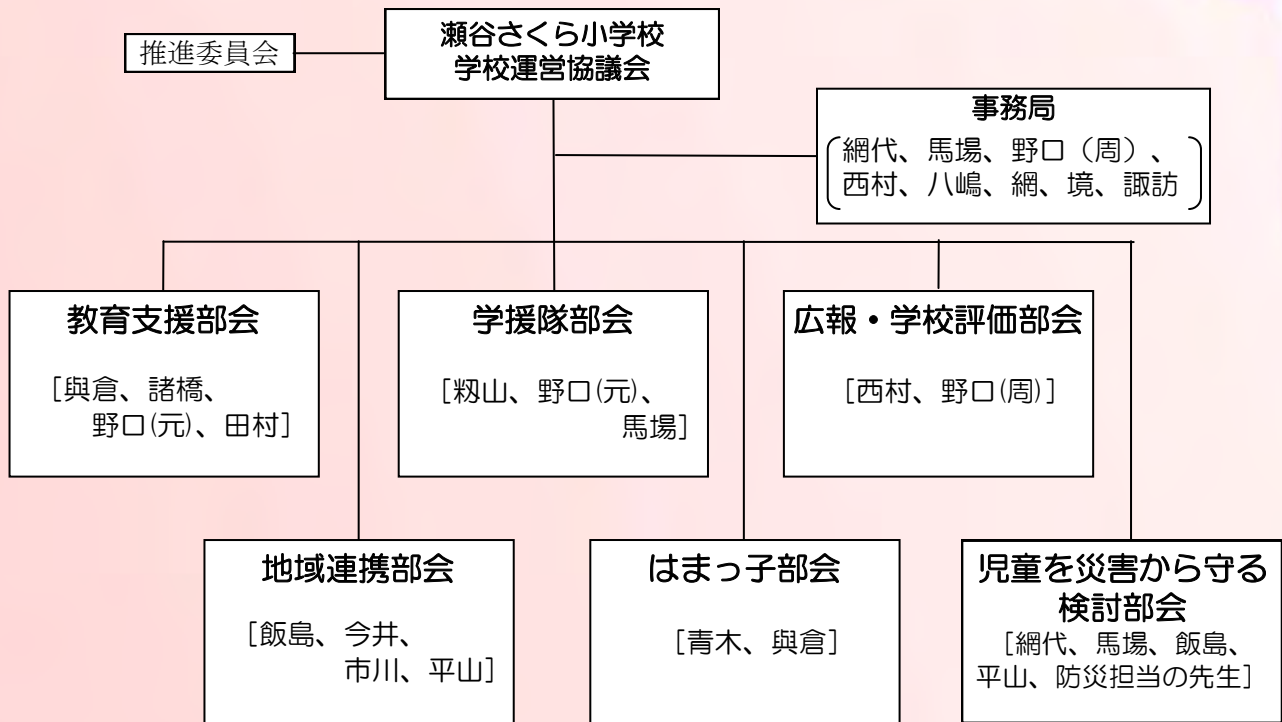
教育委員会に提出した「再編統合の意見書」に、検討委員会の要望として、「学校、家庭、地域が共に児童の成長を見つめていく学校運営をして欲しい」との意見が盛り込まれました。また、それぞれの文化を作り上げた二つの学校が一つになることは、児童、保護者、地域にとって多くの課題が想定されます。新校に係わるそれぞれの立場の皆さんの協力を得て、学校づくりを推進していくことが関係者の願いでもあります。

瀬谷さくら小学校創立を期に、子どもたちの健やかな成長を願い、新しい学校をみんなで創り、育てていくことを目的として、学校運営協議会を立ち上げることになりました。

そして、設立から2年、学校運営協議会は、2つの地域をつなぐ大きな力となり、瀬谷さくら小学校の教育を支える大切な柱となりました。

学校運営協議会組織と活動内容

23年度は、22年度の校歌・校章部会に代わって、新たに「児童を災害から守る検討部会」を加え、①教育支援部会、②地域連携部会、③学援隊部会、④はまっ子部会、⑤広報・学校評価部会、⑥児童を災害から守る検討部会の6つの部会を設け、それぞれ活動することになりました。



1) 教育支援部会

体力向上支援、学力向上支援、徳育推進、クラブ活動支援などのボランティア活動を行います。支援とはいえ教育現場に素人が入ることには様々な考え方があり、昨年度は、何ができるか模索の段階でしたが、今年度は、先生方とよく協議し具体化していきます。

2) 地域連携部会

さくら小地域夏まつりや秋季防災訓練などに協力、支援すると共に、学校、家庭、地域の交流、連携をより一層深めるためのイベントや施策を立案します。

3) 学援隊部会

こどもたちの登下校時の見守りのほか、同時刻に、青パトによる地域内の防犯パトロールを行っています。また、青パトの維持費を捻出するため、アルミ缶の回収を実施しています。

4) はまっ子部会

学援隊と同様、はまっ子ふれあいスクールも学校運営協議会の1部会に組み込まれました。活動内容は従来と同じで、放課後および日曜、祝祭日、年末年始を除く学校休業日に、児童の自主的で自由な遊びの見守りや体験活動などを行います。

5) 広報・学校評価部会

学校運営協議会の活動を中心にした広報活動、および学校評価に関する学校関係者評価の取りまとめを行います。具体的には、年3回の学校運営協議会だよりの発行と、教職員による学校評価の評価とアドバイスをを行います。

6) 児童を災害から守る検討部会

子どもたちをあらゆる災害から、いついかなる状況においても守れるよう、学校、家庭、地域の役割と連携の在り方や、こどもたちの災害対応能力の育成方法などについて検討してまいります。

各活動部会報告

教育支援部会

【支援協力メンバー】 総数約260名以上

○学援隊 (120名) 年間を通しての見守りと児童との交流
○図書ボランティア (15名) ○モチモチ文庫 (6名) 読み聞かせ…週1回 ○ウクレレ友遊会 (12名) ○カナリア会 (25名) 箏の会 (10名) ○踊りの会 (4名) 盆踊りの指導 ○算数補充学習 (29名) ○クラブ活動支援 (34名) ○畑の先生 ○その他…家庭科実習、まち探検など

【活動内容】

○学援隊：新1年生との交流…学援隊の活動紹介、昔遊びの指導/1年生の歌・紙芝居・なぞなぞの披露など、延べ3日間/登下校時に毎日児童と簡単な挨拶、会話などによる交流
○図書ボランティア、モチモチ文庫：図書室の飾り付け、読み聞かせ、月3、4回
○音楽授業：ウクレレ友遊会が児童との協演、実演指導、ウクレレを1、2年生に1時間ずつ、カナリア会がコーラスを3、4年生に1時間ずつ、箏の会が箏を6年生に2クラスに1時間ずつ実施
○盆踊りの指導：1年生に3日間実技指導
○算数補充学習：23年度11月、12月、2月に、4、5、6年生各一クラスずつ30分間、極力1対1の対応で指導
○クラブ活動支援：4年、5年、6年生と一緒に授業の一環として45分間、12/9、1/27、2/17の3日間実施、種目は、マラソン、屋外スポーツ、屋内スポーツ、サイエンス、手芸、パソコン、ミュージック、マジック、鉄棒一輪車、の9クラブ
○畑の先生：栽培活動の指導と支援
○その他：家庭科実習、まち探検などでの協力・支援

【今後の課題と提案】

○算数補充学習：①九九の出来ない子への対処をどうするか（パソコンの利用、九九の表を持たせる、九九の唄の利用、朝会での発表、などの提案があった）
②実施回数を増やす、時間の延長の提案あり
③個々について教えると一生懸命やり、効果が上がる
④ウツカリミスが多い、ゆっくりやれば出来る
⑤始めと終わりの挨拶は躰としてきちんとやるべき
⑥学年毎の難易度に差が大きい、4年が難しく6年がやさしすぎる（2月）



ウクレレ
演奏の手ほどき

○クラブ活動支援：①先生の指導方針がわからず支援員が戸惑う所がある。始まったばかりで難しいが一度担当の先生と個々に話合を持つべきである。年間計画も欲しい
②パソコンの一太郎ソフトに戸惑いがある
③6年生のリーダーシップに委ねているが、先生の強い指導も必要である
④手芸では統一したものを作るとか、基本技術を教えることも必要である

◎算数補充、クラブ活動とも初めての経験で戸惑いがあったが、先生にも刺激になる事もあったと考えられる。来年も実施するとして回数を重ねれば改善されると思われます。

◎すぐには出来ないが、先生が不在でも実施出来る体制が望ましい。土曜塾など。

◎学援隊、読み聞かせ、音楽授業、盆踊りなどの支援は個々に進められ、教育支援部会が介入せずに成果を上げており、必要に応じて支援部会が応援をしていきたい。（野口 元）

はまっ子部会

瀬谷さくら小学校はまっ子ふれあいスクールも早2年目が過ぎようとしています。当はまっ子ふれあいスクールの指針として、本年も、児童の創造性、自主性、社会性を養い、児童の健全育成を目的に、安全安心な遊び場としてスタートしました。今年は1、2年生の参加が多く、毎日30数名の参加がありますが、みんな元気いっぱいにはまっ子で遊んでいます。

また、今年は学校の工事で中断していた様々な特色ある活動、夏休みオリジナルカレンダー作りをはじめ、すいか割り大会やサッカー教室、秋には3年目の落花生・お芋掘りなど、様々な事業を参加児童に経験してもらいました。（青木俊太郎）



カレンダーづくりに挑戦

学援隊部会

120 240 360 12,600 236,000

表題の数字は何だかお判りでしょうか？ 120は隊員の人数、240は青パトの年間出動回数、360は通学路など学校周辺への隊の年間出動回数、12,600は年間の延べ出動人員数です。236,000はアルミ缶の昨年1年間の売上代金です。出動人員の時給を時間1,000円とすると総額はいくらですかね？

〔学援隊略歴〕

- 平成17年6月 下瀬谷小学校児童の下校時見守り開始
日向山小学校の構内見守り開始
- 平成18年11月 下瀬谷小学校内ボランティア活動開始
- 平成19年5月 「下瀬谷小学校学援隊」に名称変更
メールによる緊急連絡システム導入
- 平成19年11月 アルミ缶回収開始
- 平成19年12月 青パト運用開始
- 平成22年4月 下瀬谷小学校と日向山小学校の統合により、「瀬谷さくら小学校学援隊」と改称



学校正門前の
道路横断誘導

〔活動内容〕

- ・登校時の通学路の見守り：毎日
- ・下校時の通学路の見守り：月、火、金
- ・登校時の青パトでの学区内巡回：月、水、金
- ・下校時の青パトでの学区内巡回：月、水、木
- ・校舎内、校庭、学校周辺の巡回
- ・隊員と教職員の懇談会：年2回
- ・さくら小地域夏まつりで学校周辺の警備
- ・教育支援部会への協力
- ・アルミ缶回収



全校集会で紹介される隊員

子どもたちと地域を
見守る青パト



〔活動効果〕

通学路の見守りと青パトの巡回は、児童への犯罪防止の効果は絶大です。学校周辺地域の安全、防犯効果も大きいものとなっており、この地域での犯罪発生件数は他地域に比して少なくなっています。

地域間の交流も大きな成果と考えます、隣近所、単一自治会に留まらず校区内の人的交流があり、人の輪が出来ていきます。それにより更に安全安心の町となって行きます。

登下校時の子どもへの「おはよう、行ってらっしゃい、お帰りなさい、さようなら」の挨拶、「ポケットから手を出してね、道草食わずに早く帰んなよ、車に気を付けなよ」などの声かけは挨拶の躰だけでなく、子どもが地域をそして人間を信頼するきっかけになっています。

〔今後の課題〕

朝の通学路の見守りは全曜日実施されていますが、下校時と青パトの巡回は、隊員数の不足から実施されない曜日があります。今後この空白の曜日を埋めてゆくことが課題となります。

より密度の高い見守りを継続するのが目標となりますが、隊員の高齢化は着実に進み、隊員の減少が起こります。チラシ（回覧版）や口コミでの補充が必要です。

青パトの運用には40万円程の費用が必要となります。現在は個人の善意、アルミ缶の売却料金などで補っていますが、安定的な資金確保が必要となります。（野口 元）

地域連携部会

学校は、団体生活を通して人間形成・協調性を育成する場所で、下校後の日常生活における社会的秩序・ルールを守ること、要するに物事の善悪・美は地域の人たちに教えて頂かなければいけないと思います。そのためには、私たちが地域の行事に積極的に参加し、地域の方々には学校の行事に参加して頂き、教職員、保護者、地域が一体となり行動する必要があると考えます。

さくら小地域夏まつり

先生と一緒に

7月16日、17日に行われた「さくら小地域夏まつり」はその典型的な行事で、非常に良かったと思います。一年生全員がやぐらの周りで踊った盆踊り、教職員、保護者、地域の方々の模擬店など、和やかで微笑ましい光景が目には焼き付いて離れません。子どもたちも、地域のおじさん・おばさんに叱られ成長して行きます。

祭りには、今年も合計8店舗（下瀬谷自治会、南瀬谷ニュータウン自治会、下瀬谷団地自治会、下瀬谷第三町内会、ひなた山地区自治会連絡協議会、PTA、PTAOB、学校教職員）が出店し、焼きそばやラムネ、かき氷、和風スイーツ、フライドポテトなどの飲食物の販売や、金魚すくい、まとあてなどのゲーム、バルーンアートの手作り教室など、合計25品目にのぼる商品販売を行いました。



和太鼓演奏に合わせて
地域の人たちと一緒に



夜の盆踊り大会は、下瀬谷自治会、南瀬谷ニュータウン自治会、ひなた山地区協会の、太鼓の会や婦人部の皆さんのリードで賑やかに行われました。

祭りに先立って、学習指導の一環として、地域の踊りの先生による1年生への盆踊りの指導も行われ、本番でもその成果が存分に発揮されました。（飯島通博）

大勢の老若男女
で賑わう祭りの会場



下瀬谷鍋を食べよう会

2月には、下瀬谷鍋を食べよう会が催され、厳しい寒さの中、あたたかい鍋に、みんなで舌鼓を打ちました。この会は、地域で採れた野菜を子どもたちに食べてもらいたいと、地域の先輩たちが始めたもので現在はコミスクとPTAが引き継いで行っています。

鍋が煮えるまで相沢川岸を散歩し、相沢川を守る会の菊池さんの話を聞きました。河津ざくらを植樹して10年になるという話を聞いて、「私と一緒にだ！」という子も。

菊池さんの話を聞く
子どもたち

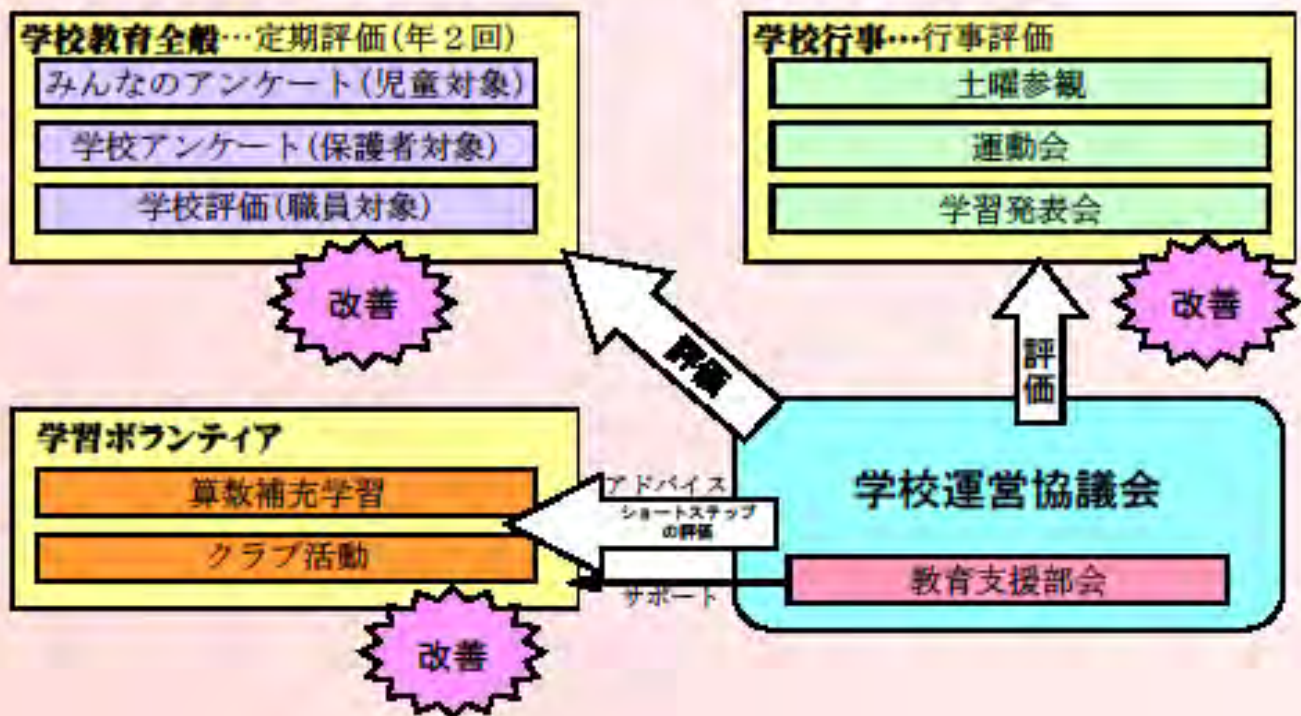


広報活動

年3回の学校運営協議会だよりの発行のほか、本誌の編集や教育研修会で使用したプレゼンテーション用資料などを作成しました。学校運営協議会だよりで、保護者や地域の人たちに、コミュニティスクールについて理解を深めてもらう記事を中心に、学校行事などでの子どもたちの様子を紹介してきました。

学校評価

瀬谷さくら小学校の学校評価の特徴は、学校運営協議会が「学校関係者評価」を行う点にあります。日頃から学校運営に深く関わり、学校や児童の様子をよく把握している学校運営協議会の方々が、第三者の視点から学校運営や、改善の取り組みの状況进行评估し、提言をします。また、サポートしていただいている算数補充学習やクラブ活動については、毎回アドバイスをいただくという形で、ショートステップの評価を実施し、速やかな改善につなげています。（諏訪 浩）



学校評価担当になって

昨年度、広報・学校評価部会の担当に指名されたときは、正直言って、何をやらいいか全くわからず、「学校評価なんて、とてもできない」と悩んでいました。そうしたら、校長先生が「文部科学省のホームページに、『学校評価ガイドライン』というものがありますよ」とアドバイスをしてくれて、早速調べてみると、内容は、「学校経営方針や、その重点実施項目を実行した結果に対して教職員による自己評価を行い、その改善策と共に学校運営協議会に報告。学校運営協議会はそれが妥当かどうか評価し、気が付いたことをアドバイスする。学校は、学校運営協議会の意見を取り入れ、次の実行計画を立て実施する」PDCAを回して、少しでも学校を良くしていこうというのが趣旨であることがわかりました。

学校運営協議会委員は、学校の授業や行事のすべてを見ているわけではないので、限界はありますが、学習発表会や運動会、授業参観や学習支援、登下校時見守りなど広く学校と係るようになって、ある程度学校の様子がわかるようになってきました。また、学校評価における教職員による自己評価には、先生方の生の声が反映されており、先生方が取り組んでおられることや悩んでおられることも、少しずつわかるようになりました。先生方はとても忙しい中、大変熱心に改善に取り組んでおられるということもよくわかりました。（西村快晴）

児童を災害から守る検討部会発足

7月7日、第2回学校運営協議会で、会長より「児童を災害から守る」ことを検討する活動部会の設置が提案され、全会一致で承認されました。

設置の趣旨

次代を担うかけがえのない児童の皆さんを、あらゆる災害から、しかも、いついかなる状況においても守れるよう、学校、家庭、地域の役割と連携のありかた、および、児童の皆さん自らも災害対応能力を備えることが大切と考え、諸検討をする活動部会の設置を行うものです。

想定災害

- * 地震災害
- * 水害（境川、相沢川の氾濫）
- * 豪雨や台風
- * 火災（地震発生に伴うものも）
- * 崖崩れ

9都県市合同防災訓練
でのバケツリレー



AEDを使った
救急救命訓練



活動部会の役割

- ①災害発生時、発生直後の児童の皆さんを守る学校、家庭、地域の行動マニュアルの検討、作成と普及啓発活動
- ②マニュアルに基づいた防災訓練の検討
- ③災害発生に強い通学路を目指し、通学路の確認と危険個所の改善を図る（崖崩れ、家屋や建造物の倒壊、橋の崩壊、等の危険）

学校でも東日本大震災を機に、『大規模地震発生時・大規模地震警戒宣言発令時』マニュアルが見直され、発表されました。7月6日には「引き取り訓練」も実施されています。

今後、保存版「各種警報発令および災害発生時における児童の安全確保について」も含めて見直しを行ってまいります。

9都県市合同防災訓練に参加した
地域の人たちと全校児童



コミュニティ・スクール推進協議会

11月17日、横浜開港記念会館で、文部科学省主催の「地域とともにある学校づくり推進協議会」が開催されました。参加者は約500名で、そのうち約150名が地域関係者ということでした。

文部科学省による行政説明、千葉大学教育学部教授・天笠茂氏による基調講演、パネルディスカッションの後、2つの分科会に分かれて事例発表会が行われました。「コミュニティ・スクールの具体的な導入の在り方・充実に向けた方策」と題した第一分科会では、横浜市立瀬谷さくら小学校と東京都世田谷区立希望が丘小学校、「地域との連携による学校運営の充実」と題した第二分科会では、川崎市立上丸子小学校と東京都杉並区立和田中学校による発表が行われました。

パネルディスカッション

三鷹市教育長の貝ノ瀬滋氏、日本大学文理学部教授の佐藤晴雄氏、横浜市立東山田中学校コミュニティハウス館長の竹原和泉氏をパネリストとして、事例紹介と質疑が行われました。

貝ノ瀬教育長からは、学校運営協議会が学校運営や学校教育支援へ参画したことにより、小中一貫教育とあいまって、授業力向上、学力向上、中学生の不登校出現率低下がみられると報告されました。

佐藤教授からは、コミュニティ・スクールの意義として、①来客効果＝来客があると部屋がきれいになる ②客観化効果＝岡目八目、外から見ればよく見えることもある ③創発効果＝三人寄れば文殊の知恵 ④効率化＝一人より二人の方がよりよく仕事が進む、ことなどが紹介されました。

パネリスト



竹原館長からは、3つの小学校を含む神奈川県初の東山田中学校コミュニティ・スクールの中核になっているコミュニティハウスが紹介されました。印象に残ったのは、学校支援地域本部というものがある、コミュニティハウスがその事務局となっていることです。主な活動は、①学校支援ボランティアの立ち上げなど、瀬谷さくら小学校学校運営協議会でも行っている活動のほかに、

②小中学校や地域のイベントを載せたコミュニティカレンダーの作成、③ファンドの立ち上げなどです。学校支援地域本部という名前はわかりやすく、常駐の館長が関わっているのは心強いことです。また、コミュニティカレンダーは、ボランティア募集や集客に役立つと思いました。

プロジェクトを使った発表



第一分科会

第一分科会では、パネリストでもあった三鷹市教育委員会教育長の貝ノ瀬茂氏をコーディネーターに、横浜市教育委員会と東京都世田谷区教育委員会が事例発表を行いました。

横浜市では教育委員会の藤城主任指導主事が、市立学校の現状と地域とともにある学校づくりへの取り組みについて説明した後、やや緊張気味の八嶋校長と網代

藤城、八嶋、網代の各氏



会長が、共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」～みんなの力で守り育てよう瀬谷さくら小学校・さくらの子～をスローガンにした、瀬谷さくら小学校学校運営協議会の特色と活動内容について詳しく説明を行いました。

世田谷区立希望が丘小学校の発表では、東日本大震災の経験と教訓を踏まえて、防災拠点としての避難所運営の見直しや宿泊訓練など、防災を中心にした取り組みが紹介されました。

最後に質疑が行われ、想定に反して、「教育の目的は?」とか「学校運営協議会の権限について」とか難しい質問が相次ぎました。今年のコミュニティスクール推進協議会は、横浜のほか熊本、新潟などでも開催されていますが、質問者の自己紹介によると遠く三重県などからも参加されたようです。



展示されたポスター

ポスターセッション

会議と並行してポスターセッションも開かれ、瀬谷さくら小学校からも、学校運営協議会の各活動部会の紹介を行いました。他には、東京都東村山市教育委員会、横浜市教育委員会、福島県三春町立三春小学校、川崎市立上丸子小学校、東京都世田谷区立希望が丘小学校がポスターの展示を行いました。

横浜市教育実践フォーラム

1月28日、横浜市教育文化センターで行われた「横浜市教育実践フォーラム」で、瀬谷さくら小学校学校運営協議会の活動を紹介しました。

今回は、学校運営協議会の生い立ちから現在までの活動について説明した後、学校評価について詳しく説明を行いました。教職員による評価、学校運営協議会による評価のほかに、学援隊や学習支援ボランティアから寄せられる意見やアドバイスが、学校にとってとても有意義であることを説明しました。また、7ページの「学校評価担当になって戸惑ったこと」などをお話ししました。



概要説明

最後に、学校運営協議会各部会の代表8名の紹介と各部会のセールスポイントを発表し、発表を締めくくりました。

100名ほど収容の会場で立ち見が出るほどの盛況でしたが、参加者からは、①地域の委員選出の仕方 ②地域の方の学

習支援への係り方 ③学習ボランティアの募集の仕方 ④活動資金について、などの質問がなされました。①に関しては、学区の各自治会長を中心に、学識経験者、PTA役員、学援隊役員などを加えて構成したこと、②に関しては、4ページに書いたことをかいつまんで、③に関しては、今のところ、学援隊員を中心に、人づてで募集していることを説明しました。④に関しては、教育委員会から、わずかではあるが補助金が出ていることと、現在、ファンドを検討していることが説明されました。



学校評価説明



各部会の代表者紹介

成果と今後の課題

取組のねらい

- 本校は、再編統合により平成22年4月1日に開校した。統合後の学校・児童を地域との関わりの中でどのように育てていくかが課題となった。
- 学校運営協議会を設置し、統合後の地域をつなぎ、保護者や地域の思いや願いを学校運営に反映する体制を確立することによって、地域とともに子どもを育てる学校運営や地域の在り方を探ることを研究のねらいとした。

取組の実施状況(平成23年度)

- 中期学校運営方針の承認、学校評価、活動部会報告等の検討のため学校運営協議会を開催し、学校運営や学校評価、支援活動について討議した。(5月、7月、11月、1月、3月)
- 東日本大震災を受けて、「児童を災害から守る検討部会」を立ち上げる。(7月)
- 活動部会間情報交換推進のため「運営協議会全体研修会」を行う。(9月)
- 学校評価を受けて教育支援部会による「算数補充学習」「クラブサポート」のボランティア募集と支援活動を始める。(11月)
- 他都市の実践に学ぶため、平成23年度コミュニティスクール推進協議会(新潟会場)参加
- 学校運営協議会の導入について2年間の研究成果を平成23年度コミュニティ・スクール推進協議会(横浜会場)、および横浜市教育実践フォーラムで発表した。(11月、1月)
- 学校運営協議会による学校評価とその活用についての情報収集のため、京都市立高倉小学校を視察し、高倉小学校と八王子市立中山小学校と3校で情報交換を行った。(2月)

運動会



「健康作り」などの活動が認められ、横浜市の健康優良校として表彰された。

- 文部科学省の推進協議会や横浜市教育実践フォーラムでの実践発表を経験し、自校や地域のよさを再認識できた。
- あいさつがよくなる子どもが育ってきた。
- 地域の輪が広がり、つながりが深まってきた。

今後の課題と取組予定

- 学校評価の効果的活用資する学校運営協議会を中心とした地域参画の在り方についてさらに研究を進めていく。
- 教育支援部会の活動に地域コーディネーターを導入し、地域におけるより効果的な学校支援体制を構築していく。

取組の成果

- 学校運営協議会とその活動部会の体制が整い、具体的な学校支援活動を行えた。
- 年間2回の大きなPDCAサイクルにおける学校評価と、支援活動ごとに行われるスモールステップの評価に基づいて、具体的な改善策の検討と教育活動の改善ができた。
- 「算数補充学習」や「クラブサポート」など教育支援部会を中心に地域の共同参画による「協働」の活動が始まった。
- 学校運営協議会を中心とした活動により、学校、PTA、地域が活性化し、「あいさつ」や

学習発表会



ともに創る地域の学校

校長 八嶋 真理子

1月28日(土)に横浜市教育センターで行われた教育実践フォーラムで瀬谷さくら小学校の学校運営協議会の取組と学校評価について発表いたしました。活動部会の中心となる地域の皆様と一緒に発表に参加してくださったので、地域ぐるみで子どもたちを育てている様子をお伝えすることができました。定員100名の会場は立ち見が出るほどの盛況で、教育長様、教育委員長様にもご参観いただきました。特に、本校の学校運営協議会は、保護者の皆さんや教職員からの学校評価アンケートの結果を受けて、具体的に地域の力で子どもたちのためにできることを検討し具体化していることが大きな特徴で、その点が今回の発表で参加者から高い評価をいただきました。本年度は、「児童を災害から守る検討部会」の立ち上げや、算数の補充学習やクラブ活動に教育ボランティアとしてたくさんの方々に参加していただくなど、地域の力が学校教育の可能性を今まで以上に広げました。これは、これからの日本の教育への一つの提案とも言えるものではないかと思えます。



子どもたちの 健やかな成長を願って

学校運営協議会

副会長 馬場勝己

下瀬谷小学校、日向山小学校の再編統合委員会に、ひなた山地区の代表として参加していたことから、平成22年4月1日の開校と同時に設立された瀬谷さくら小学校学校運営協議会の委員の一員に加わらせていただきました。



新しい学校の誕生とともに、新しい校風をつくりたいと『ともに創る地域の学校』を合言葉に取り組んでまいりました。

学校の象徴である“校歌・校章”も制定できましたし、子どもたちの登下校の安全を見守る“学援隊”、学校と地域の祭りなどの“地域交流”が進みました。さらに、子どもたちの学習を支援する、地域の教育力を活用した“学習支援”等の各部会活動が活発に行われました。

まだ、2年足らずの活動ですが、これからも地道な活動を継続して、子どもたちの健やかな成長を見守り、支援したいと思っています。



学習支援お礼の会

瀬谷さくら小学校は、開校からわずか2年ではありますが、下瀬谷小学校と日向山小学校の伝統と地域のよさを生かし、家庭だけではできない子育てや学校だけではできない教育を新たに地域の力で創造しようとしています。そこに多くの方々が夢を託し、力を貸してくださっています。このような環境の中で育つ子どもたちは幸せです。おかげさまで、心優しく元気で明るいさくらっ子が育っています。私たち教職員一同は、保護者や地域の皆様のご支援のもと、今後もさらに力を合わせて子どもたちのために豊かな教育活動を創ってまいります。



学校運営協議会委員の皆さん

【編集後記】 統合から2年、そろそろ統合から卒業しなければと思いつつ、今年は教育支援部会が奮闘しました。それなのに十分な紙面を提供することができず、申し訳なく思っています。今後は、もう少し時間に余裕をもって編集会議などを開き、紙面を充実させたいと思っています。(西村快晴)